

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年2月4日 (2016.2.4)

【公表番号】特表2013-537517(P2013-537517A)

【公表日】平成25年10月3日 (2013.10.3)

【年通号数】公開・登録公報2013-054

【出願番号】特願2013-518306(P2013-518306)

【国際特許分類】

C 0 7 F 3/06 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

C 0 9 K 11/06 (2006.01)

G 0 1 N 21/78 (2006.01)

C 0 7 D 215/26 (2006.01)

C 0 7 D 277/66 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 F 3/06 C S P

H 0 5 B 33/14 B

C 0 9 K 11/06

G 0 1 N 21/78 C

C 0 7 D 215/26

C 0 7 D 277/66

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年12月9日 (2015.12.9)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 4 】

好ましくは、無機アニオン A は、オキシ酸、二元酸、酸無水物、酸素、硫黄、セレン、またはテルルに由来するアニオンである。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 1

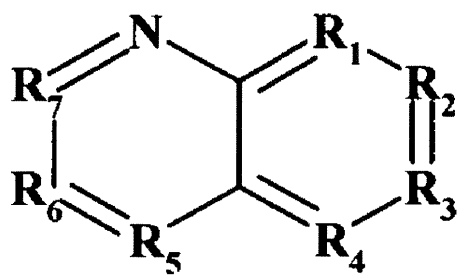
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

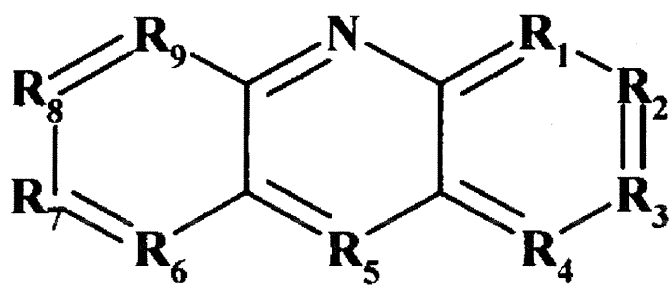
【 0 0 2 1 】

好ましくは、配位子 L は、式 1、式 2、式 3、式 4、式 5、式 6、式 7、式 8、式 9、式 10、式 11、式 12 または式 13 の有機化合物である：

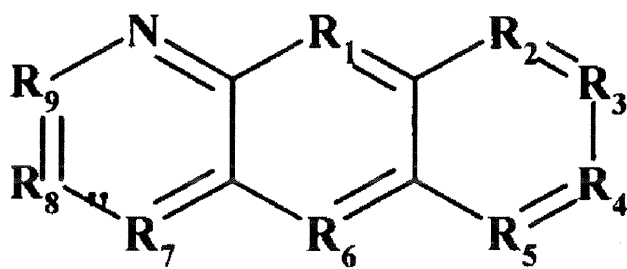
式 1



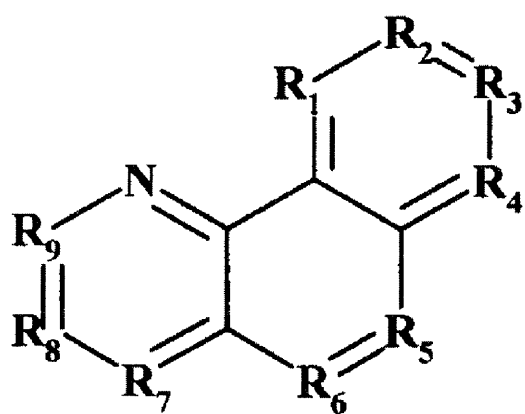
式 2



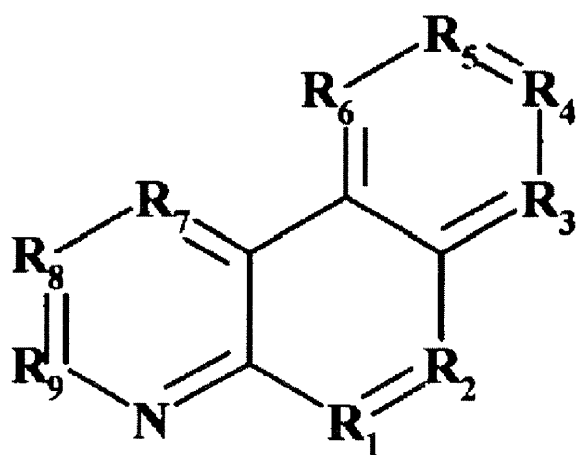
式 3



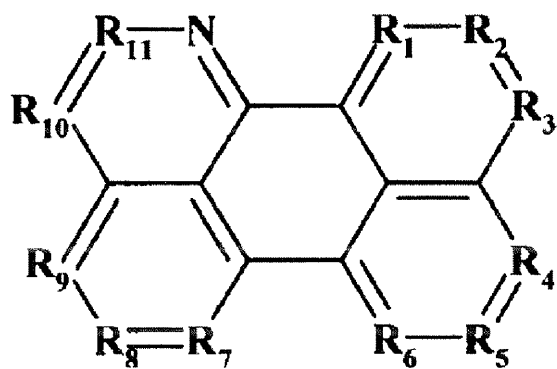
式 4



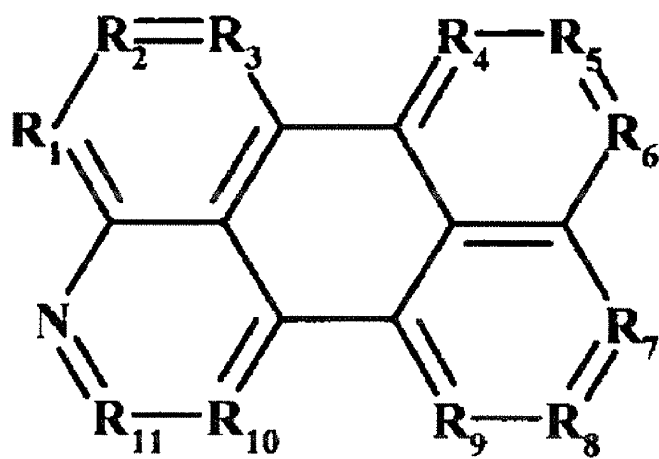
式 5



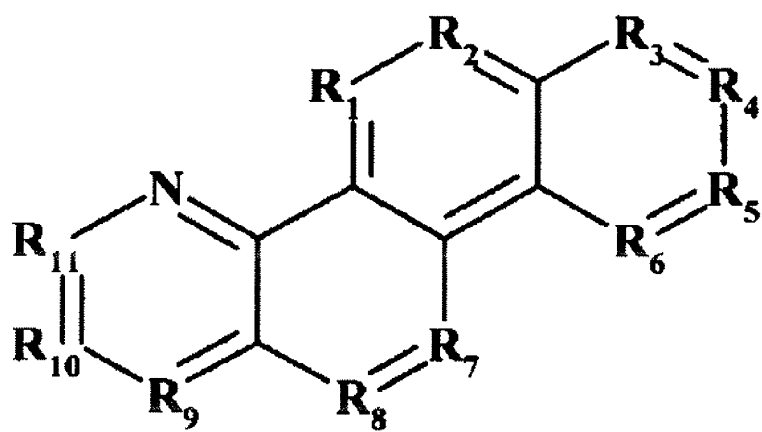
式 6



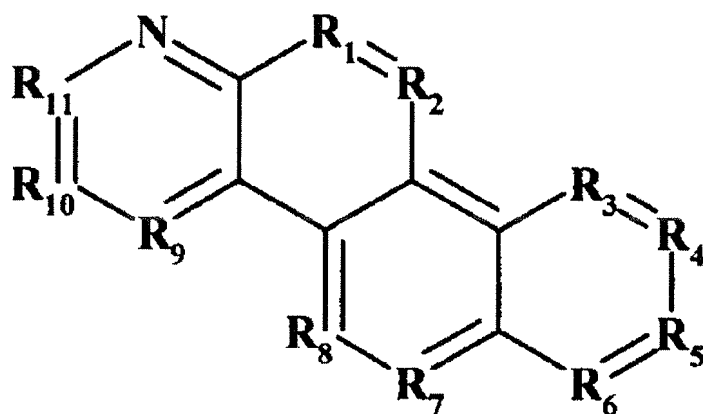
式 7



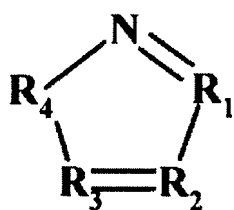
式 8



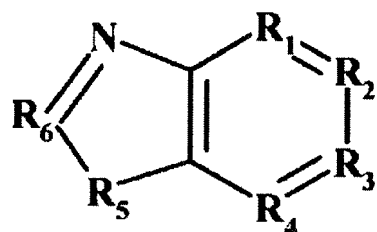
式 9



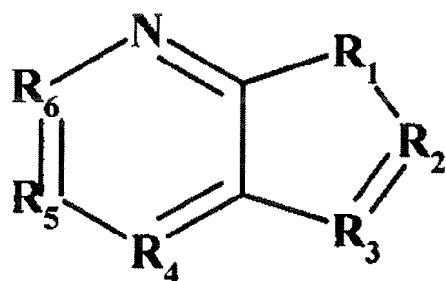
式 1 0



式 1 1



式 1 2



式 1 3

式中、R 1、R 2、R 3、R 4、R 5、R 6、R 7、R 8、R 9、R 10、R 11は、窒素、硫黄、酸素から選択されるヘテロ原子、あるいは、水素、（場合により置換されている）直鎖または分枝状のC 1～C 10アルキル、（場合により置換されている）フェニル、（場合により置換されている）ベンジル、（場合により置換されている）エーテル基、（場合により置換されている）ケトン基、ハロゲン、- OH、- SH、- NH₂、- NH R、- COOH、- CONH₂、- CONRH、- O⁻、- S⁻、- NH⁻、- NR⁻、

-COO⁻、-CONH⁻、-CONR⁻、に結合した炭素原子、
 ここで、R¹は、好ましくは、基：-OH、-SH、-NH₂、-NHR、-COOH、
 -CONH₂、-CONR¹Hの1つに結合した炭素原子、より好ましくは基：-O⁻、-
 S⁻、-NH⁻、-NR⁻、-COO⁻、-CONH⁻、-CONR⁻の1つに結合した
 炭素原子である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

本発明はまた、一般式(R')_xZn_y(L)_z(A)_n(XR)_mの化合物の調製のための方法であって、前駆体R'_xZn_y(L)_z(X_kR)_m：式中、Lは、二または多官能性有機中性配位子またはその脱プロトン化形態であって、N、O、Sから選択される少なくとも2個のヘテロ原子を含有しており、ここで、配位子の官能基の少なくとも1個は、-OH、-SH、-NH₂、-NHR、-COOH、-CONH₂、-CONR¹Hまたはこれらの脱プロトン化された等価体から選択され；Xは、酸素または硫黄であり、R'は、直鎖もしくは分枝状のC₁~C₁₀アルキル、ベンジル、フェニル、シクロヘキシルまたはハロゲンであり、Rは、水素、アルキルまたはアリールであり、xは、0~6の数であり、yは、1~12の数であり、zは、1~12の数であり、mは、0~6の数であり、kは1または2である；が、溶媒中で、酸素、水、元素状硫黄、セレン、テルル、オキシ酸、二元酸、酸無水物および/または無機酸塩との反応に、あるいは熱転移に付される、方法にも関する。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

好ましくは、用いられる二元酸として、H₂S、H₂Se、H₂Teが挙げられる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0032

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0032】

好ましくは、反応において、元素状硫黄、セレンまたはテルルが用いられる。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

実施例3

式[(^tBu)₂Zn₄(μ₄-O)(Meq)₄]の蛍光化合物の調製

0.1mLの、0.5Mの水のTHF溶液(0.05mmolのH₂O)を、0.150g(0.5mmol)の、5,7-ジメチル-8-ヒドロキシキノリンのtert-ブチル亜鉛誘導体(^tBuZnMeq)₃を含有する、5mLのテトラヒドロフラン溶液に添加した。反応を室温で4時間行った。結晶化により、X線構造研究に好適な単結晶を得た。X線構造研究は、反応の生成物が、以下に提示する構造式の[(^tBu)₂Zn₄(

$\mu_4 - \text{O}) (\text{Meq})_4]$ 付加物であることを示した。
【化 5】

